

恐怖な自分

そわ

私の名前はさくら

私は友達を連れて図書館にいきました。

私は、算数の小数の掛け算の筆算の本を借りました。

友達が借りたのは、呪える本です。

私は、言いました。「それ何に使うの?」

友達は言いました。「死ぬほど恨んでいる子がいるのだからそいつを呪うために。」

私が言う。「そんな人ほっといたらいいじゃん。」

友達が言う。「何ゆっているの、呪うやつはお前だよ。」

私が言う。「なんでよ私にかした。」

友達が言う。「決まってるじゃん、もしかして忘れた?

昔あなた私を学校の三階からつきおとしたんじゃない。

ほんとうに忘れたの? あんた頭だいたいようぶ? ずっと

あなたを恨んでいた。ずっと友達みたいな演技をして

いた。もううんざりだから。」

私が言う。「それ私じゃない。」

友達が言う。「は? じゃ、だれだつてゆうの。」

私が言う。「もうひとりのわたし。」

友達が言う。「は、意味がわからない。」

私が言う。「普通そうだよ。でも私自身がやったわけじゃない。私の心がやったのだからわたしはやってない。」

友達が言う。「あなた顔色が悪い。」

私が言う。「もうちよつとだったな.....」

友達が言う。「やめて。」

私が言う。「バイバイ。」

友達「.....」

ニュースです

今日午前七時頃、十四歳の女性が遺体で見つかりました。

なにかの刃物でおそわれているこんせきです。

犯人はまだ捕まっていないそうです。

みなさんもじゅうぶんに気をつけてください。